

上肢懸垂用 肩関節装具

オモニューレクサ プラス (5065N)

脳卒中片麻痺 肩関節亜脱臼に対する装具療法



オモニューレクサ プラス (5065N)

脳卒中による肩関節痛と装具療法の問題

脳卒中発症後において、肩関節周囲筋の麻痺による合併症として肩関節亜脱臼を認める症例がしばしば観察されます。それにより、関節包、筋・腱、腋窩神経が伸張されることにより疼痛の原因となることがあります。

日本の臨床では、三角巾、アームスリングなどをはじめとする様々な装具が使用されることが多いですが、肩関節屈曲・内転、肘関節屈曲位での固定となり、拘縮を助長してしまう可能性があると考えられています。

オモニューレクサは、この問題を解決する装具として誕生しました。

オモニューレクサの誕生 - ステファン・ヘッセ教授 * との共同開発 -

2008年にオッターボック社は動作分析を専門とする脳神経外科医ステファン・ヘッセ教授とともに、脳卒中片麻痺による肩関節亜脱臼用装具としてオモニューレクサを開発しました。

オモニューレクサは、肩関節を良肢位で保持することにより、肩関節への負荷を軽減するとともに、痛みを緩和します。

さらには、体幹のバランスも整え、歩行時の過度な腕の振れが抑えられ、歩容の改善も期待されています。2009年には、日本でも販売を開始、肩関節への多くの論文発表・研究報告がされ、その効果は国内での臨床においても立証されています。



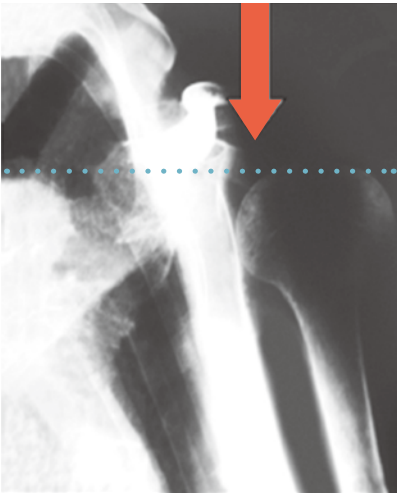
“The arm is taken care of so the patient can better concentrate on gait training”

“上肢が支えられることで体幹が安定し、患者はより歩行訓練に集中できる”

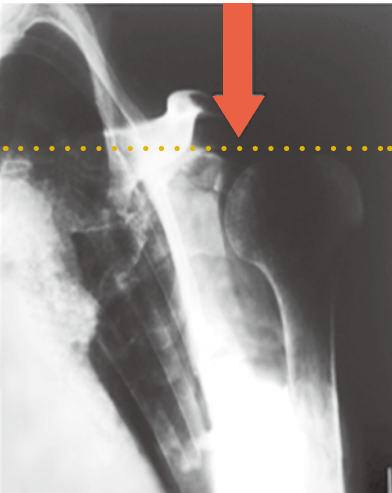
* Prof.Dr.med.Stefan Hesse:Head of the Department of Neurology at Medical Park Berlin Humboldtmühle

上腕骨頭位置の改善

ステファン・ヘッセ教授による評価報告によると、オモニューレクサを装着した状態でのレントゲン写真において亜脱臼の減少も証明されています。



● 非装着時



● 装着時

Hesse, S., Bardeleben, A., Grunden, J., Rembitzki, I.,
「Presentation of a new shoulder orthosis for the treatment of a painful shoulder in highly paretic patients in the early phase of rehabilitation
(早期リハビリテーションにおける脳卒中片麻痺患者の肩関節痛に対する新しい装具の提案)」
Neurologie & Rehabilitation 2008; 14 (2): 89-92.

オモニューレクサ プラスの誕生

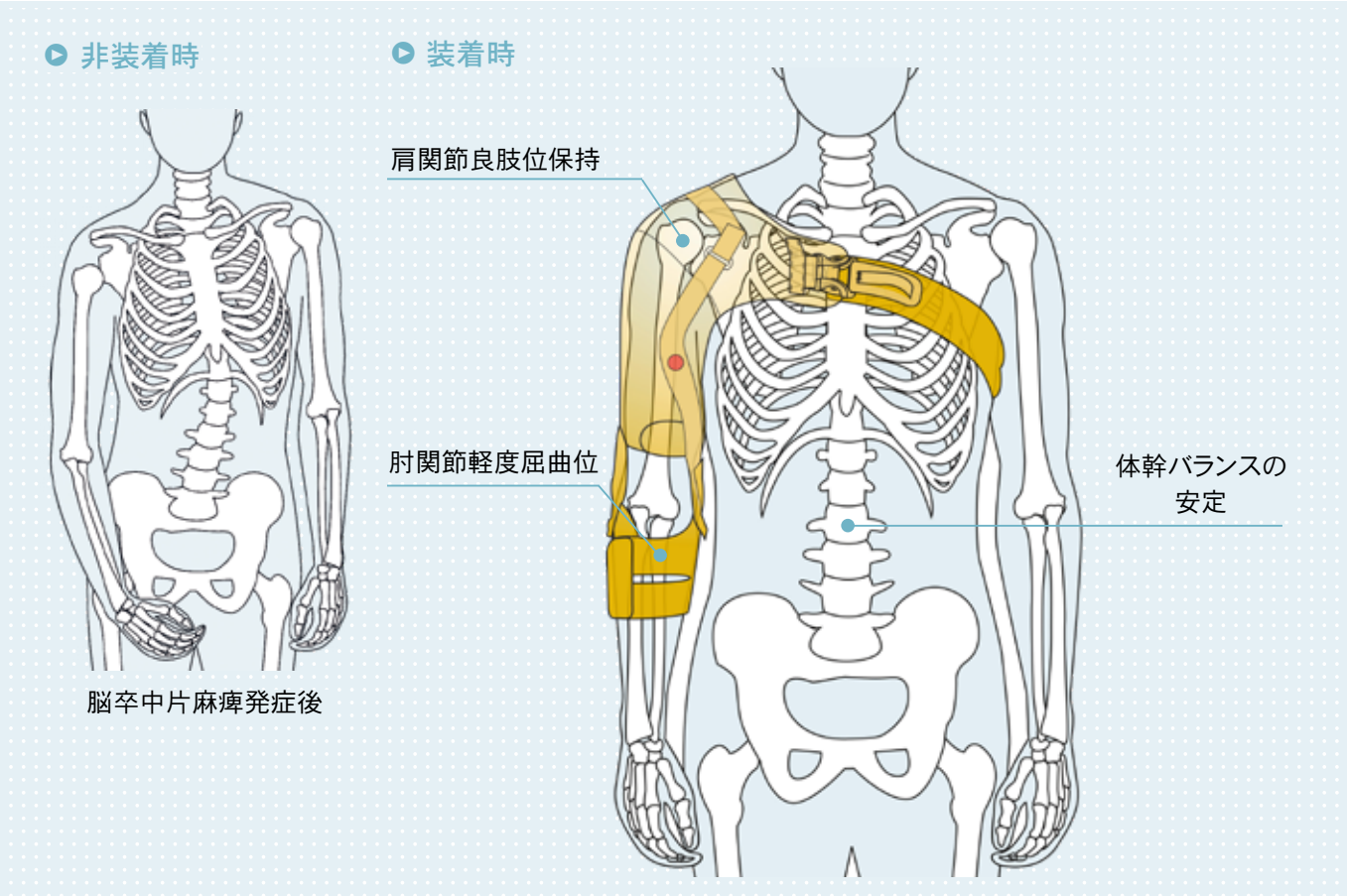
2017 年。
オモニューレクサは、装着感を改良し、オモニューレクサ プラスとして生まれ変わりました。

オモニューレクサ プラスは、オモニューレクサと同様、ショルダーカフと前腕カフから構成されており、それらのパーツは2本の懸垂ストラップで連結されています。各パーツに付属するストラップの長さを調整することによって、個人に合わせた調整ができます。

<p>適応</p> <ul style="list-style-type: none">● 脳卒中片麻痺による肩関節亜脱臼	<p>リハビリ早期から ADL 自立まで</p> <ul style="list-style-type: none">● 装着しやすい立体構造● 脱着が容易なバックル● 片手装着可能なベルト <p>上記により、手間のかかる装着が容易に。 正しい装着を行うためには、装着の介助が理想的ですが、リハビリの進行度や身体状態においては自己装着が可能です。 自立した ADL 獲得の可能性が広がります。</p>
<p>期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none">● 疼痛の緩和● 歩容の改善● 立ち上がり動作の安定● 上腕部、前腕部の良肢位保持● 肩関節の保護	

オモニューレクサ プラスの装着肢位

前腕カフを連結し、引き上げることで上腕骨頭を関節窩へ引き寄せ、肩関節構成体への負担を軽減します。また、装着肢を肩関節外旋位、肘関節軽度屈曲位、前腕回外位に保持する構造になっており、自然肢位の保持（不良肢位・動作の改善）、歩行訓練時の体幹の安定効果が期待されています。



オモニューレкса プラスの構造

オモニューレкса プラスは、ショルダーカフと前腕カフ、そして、それらを連結してより効果を高めるための懸垂ストラップから構成されています。その他の詳細な製品ポイントを以下に示します。

① シリコンで懸垂をサポート



上腕部と前腕部の裏地の端部にシリコン素材*の滑り止めを施すことで、懸垂した上肢を保持します。

*シリコン素材により、皮膚障害などを起こす場合があります。アレルギー体質の方や肌が過敏な状態にある方は、医師または義肢装具士など、担当医療機関に相談の上、ご装着ください。

② 腕を通しやすい立体構造

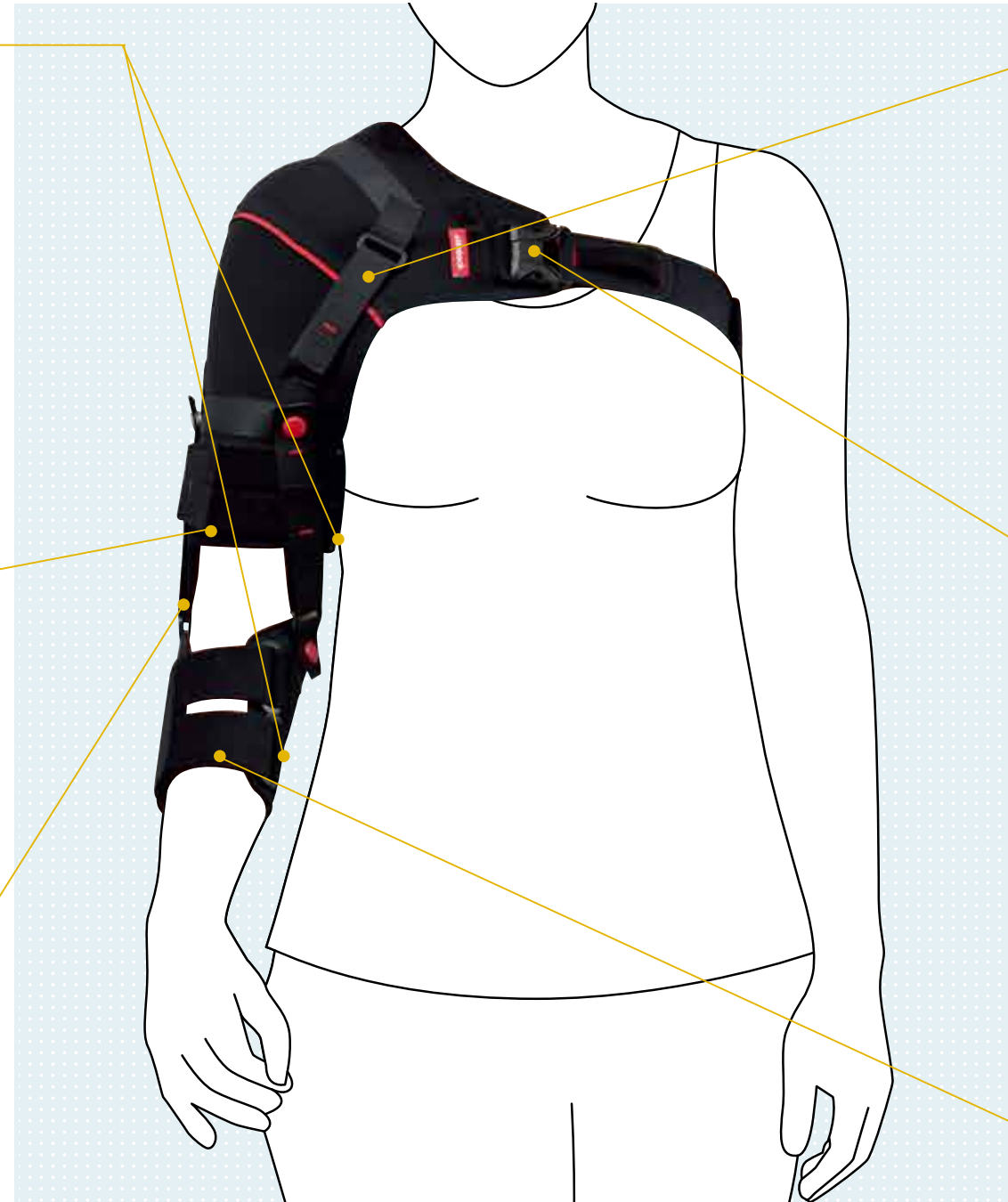


上腕カフ・前腕カフが筒形構造になっており、装着イメージがしやすいだけでなく、腕も通しやすくなっています。

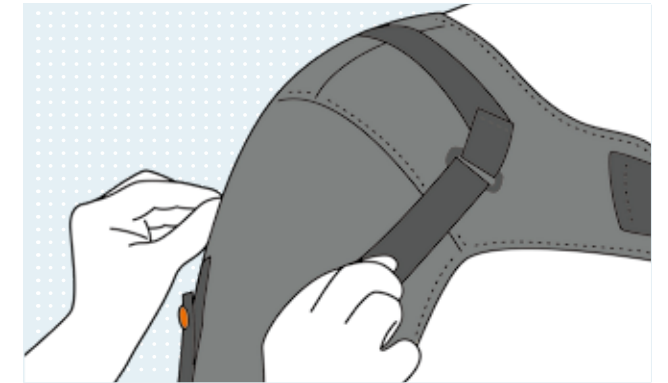
③ 良肢位での前腕保持



前腕カフを連結し上肢全体を懸垂することで、肩関節にかかる負荷を軽減し、疼痛を緩和します。また、懸垂ストラップの走路は前腕回外位に保持する方向に導きます。



④ 肩関節の的確な調整



各ベルトを調整することで、上肢を肩関節方向へ引き上げる構造となっています。ベルトは面ファスナーで調整できるため、装着後の微調整も可能です。

⑤ 着脱、調整が容易なバックル



胸部の幅広ベルトには、脱着が簡単になるバックルがついています。バックルを留めたあと、さらにベルトを締めこむことができます。

⑥ 調整が容易なループ状ベルト



各ベルトは折返して留めることができるループ状になっているため、片手でも簡単に調整ができます。

⑦ XXS から XL まで幅広いサイズ



幅広いサイズ展開で、様々な体型に対応します。
XXS は脇下胸部周径 71 ～ 79cm に対応。
小柄な方でも使用することができます。

装着手順 ～装着介助する場合～

オモニューレкса プラスは、リハビリの早期段階での使用開始を推奨しています。

初期は、義肢装具士による適合調整ののち、医師や理学療法士をはじめとする医療従事者によって装着を行います。



1 麻痺側に通した上腕カフを、肩関節まで引き上げ固定する。



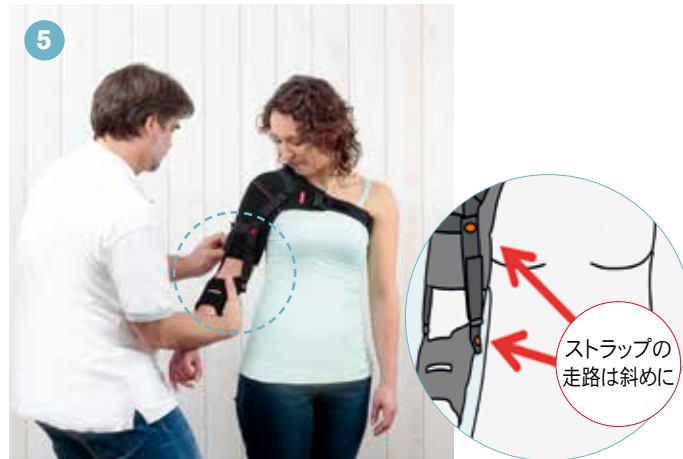
2 幅広ベルトを腋窩に通し、胸部前後の長さを調整し仮留めする。



3 上腕骨頭を持ち上げるように装具を引き上げ、上肢を挙上させながら、胸部ベルトを締め込む。



4 前腕カフの肘部分の開口部を、肘頭が出る位置に合わせ固定する。



5 同色どうしの懸垂ストラップを繋げる。上肢が外旋位になるよう、ストラップの走路は斜めになる。

装着図

チェックポイント

□ 肩は良肢位になっているか。

□ 前腕カフの位置は適切か。

□ ボタンの色は間違っていないか。

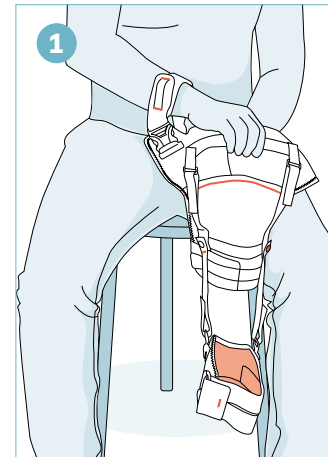


※ 詳しい装着手順については、製品に添付される取扱手引書をお読みください。

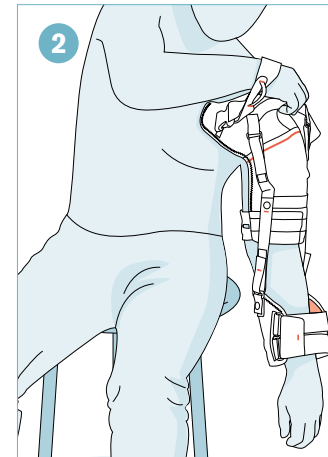
装着手順 ～自己装着する場合～

オモニューレкса プラスは、独特の形状デザインやベルト構造により、自立したADLを目指すため、自己装着が可能です。

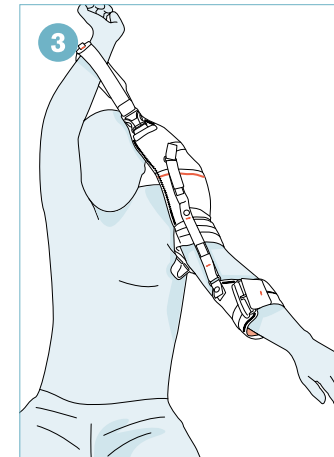
なお、自己装着の可否は、リハビリの進行度と本人の身体状況によって見極め、必ずリハビリにて十分な訓練を行ってください。



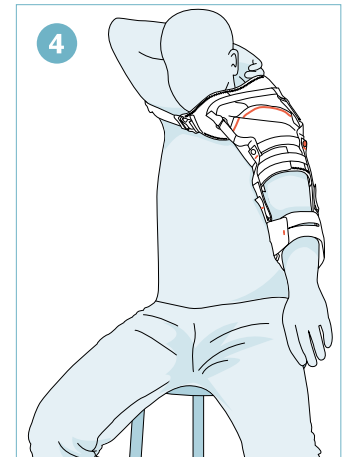
1 上腕カフに麻痺側を通す。



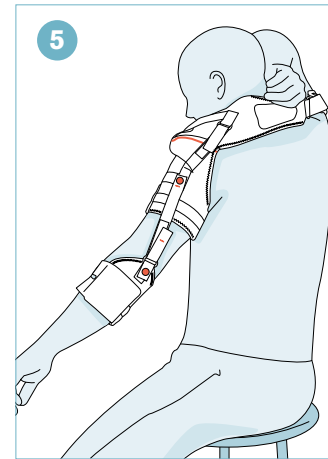
2 肩関節まで引き上げる。



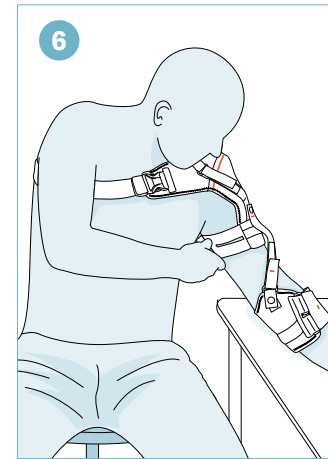
3 セーターを着るように、非麻痺側を幅広ベルトのループに通す。



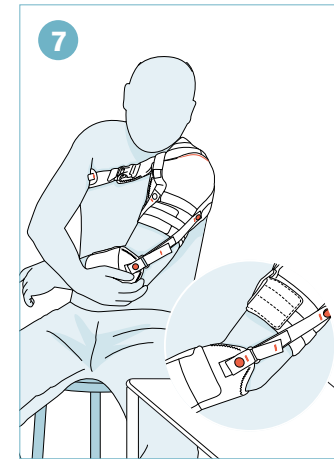
4 腋窩まで通す。



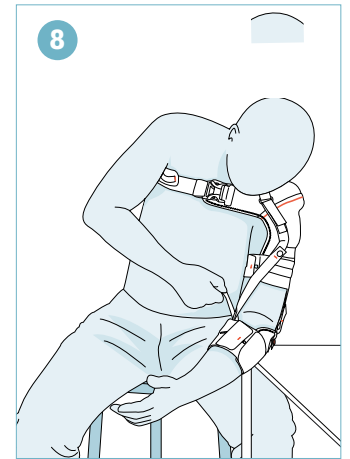
5 背面で幅広ベルトが、ねじれないようにする。



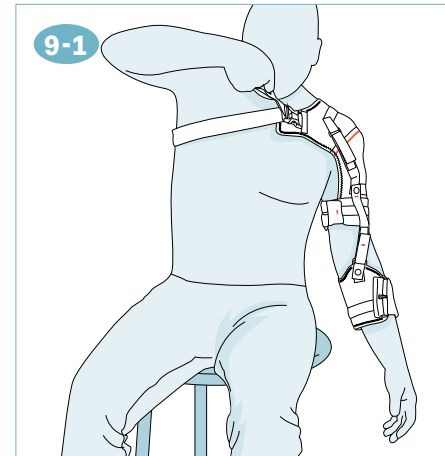
6 テーブル上で挙上位に保ち上腕カフの面ファスナーを閉じる。



7 前腕カフ肘部分の開口部を肘頭に合わせ、面ファスナーを閉じる。

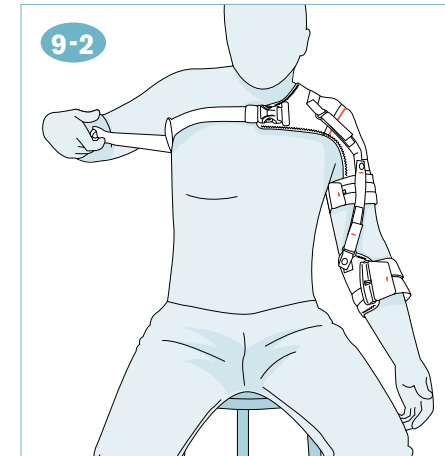


8 懸垂ストラップを締め直す。

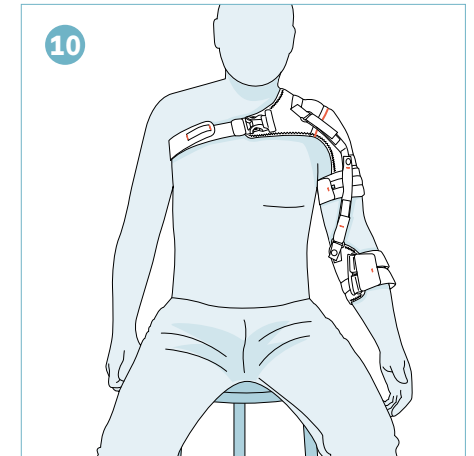


【前から締める方法】

上図 2 種類から調整方法を選択し、幅広ベルトを締める。



【後ろから締める方法】



各ベルトを調整し、装着完了。

※ 詳しい装着手順については、製品に添付される取扱手引書をお読みください。

自己装着する場合の装着動画
QRコード



固有感覚受容器を刺激するためのシリコンパッド

付属パーツとして、肩関節周囲の背部筋群を押さえるための『シリコンパッド』を同梱しています。

貼付箇所に指定はありませんが、肩関節周囲の背部筋群に刺激を与えることができます。使用する場合には、適切な指導のもとで活用してください。



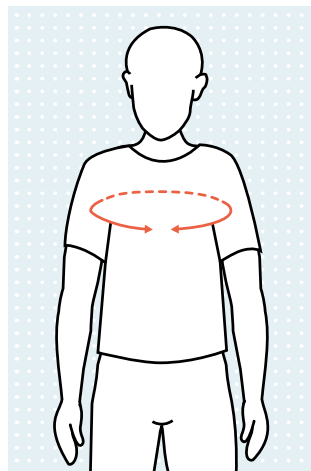
製品サイズ

下記のサイズ表からお選びください。

発注品番	左右	サイズ	適用範囲
			胸部周径 (cm)
5065N=R-XXS-7	右	XXS	71～79
5065N=R-XS-7		XS	79～86
5065N=R-S-7		S	86～94
5065N=R-M-7		M	94～102
5065N=R-L-7		L	102～110
5065N=R-XL-7		XL	110～118
5065N=L-XXS-7	左	XXS	71～79
5065N=L-XS-7		XS	79～86
5065N=L-S-7		S	86～94
5065N=L-M-7		M	94～102
5065N=L-L-7		L	102～110
5065N=L-XL-7		XL	110～118

《サイズの測り方》

イラストのように脇下の胸部周径を測ります。



お問い合わせ先

- ・本カタログは医師または義肢装具士などの医療従事者向けです。
- ・本誌掲載の製品を使用される際には、必ず義肢装具士および医師が調整を行ってください。
- ・予告なく製品の仕様やデザインが変更になることがあります。
- ・カタログの写真と実際の製品とは、色などに違いがある場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・本カタログの内容は 2019 年 7 月現在のものです。